



高梁市街

基本方針

備北信用金庫は
地元の皆様ならびに
中小企業の方々の金融機関として
地域社会の発展に寄与する

経営方針

- 1 中小企業金融の公共性に鑑み、広く地域経済と密着し、その繁栄に奉仕する。
- 2 経営に創意と総力を結集して、金庫の業容拡大と機能の充実を図り、経営体質の強化に努める。
- 3 人材の育成を図り、職員の福利増進と生活水準の向上に努め、希望と活気ある明るい職場づくりに努める。

金融商品に係る勧誘方針

当金庫は、「金融商品の販売等に関する法律」に基づき、金融商品の販売等に際しては、次の事項を遵守し、勧誘の適正の確保を図ることとします。

1. 当金庫は、お客様の資産運用目的、知識、経験および財産の状況に照らして、適正な情報の提供と商品説明をいたします。
2. 商品の選択・購入は、お客様ご自身の判断によってお決めいただきます。その際、当金庫は、お客様に適正な判断をしていただくために、当該商品の重要事項について説明をいたします。
3. 当金庫は、誠実・公正な勧誘を心掛け、お客様に対し事実と異なる説明をしたり、誤解を招くことのないよう、研修等を通じて役職員の知識の向上に努めます。
4. 当金庫は、お客様にとって不都合な時間帯や迷惑な場所での勧誘は行いません。
5. 金融商品の販売等に係る勧誘についてご意見やお気づきの点等がございましたら、お近くの窓口までお問い合わせください。

CONTENTS

基本方針・経営方針

ごあいさつ	1
個人情報保護宣言	2
内部管理基本方針	2
リスク管理についての取り組み	3
総代会制度	4
備北信用金庫と地域社会	6
トピックス	8
営業のご案内	10
業績のご報告	13
経営指標	17
預金業務	18
融資業務	18
自己資本の充実の状況	22
手数料一覧	29
びしんのご案内	31



ごあいさつ

新見市街

平素より備北信用金庫に格別のご愛顧を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

本年も、平成19年度における当金庫の経営情報をわかりやすく開示したディスクロージャー誌「みなさまとともに“BISHIN '08”」を作成いたしました。

ご高覧の上、備北信用金庫へのご理解をより一層深めていただければ幸いに存じます。

さて、平成19年度の我が国経済は、一昨年秋に戦後最長の「いざなぎ景気」を更新し、米国、新興国経済の活況を支えに大企業を中心に回復いたしました。雇用者所得の伸び悩みや原材料価格の上昇が製品小売価格に転嫁される動き等から個人消費は盛り上がり欠き、サブプライム問題による金融資本市場の混乱等から景気への影響が懸念されています。

金融面では、日本銀行は昨年2月に政策金利を引上げ0.5%としその後は現状維持で推移し、また、郵貯銀行の発足、保険窓販の全面解禁の中で金融商品取引法が施行され、金融行政は利用者の利便・保護を一層重視した監督下となっております。

そうした中で、当地区では自動車関連の誘致企業等では工場を増設するなど活況を呈していますが、地域の主幹産業の土木建設業界では公共事業の削減から受注量が減少し企業間格差が顕著です。一方消費面は、地域住民に加え、行政による学園都市づくりの影響から学生の大量来店やコンビニ店への利用が浸透しております。

こうした金融経済環境のもと、金庫の各種支援組織をもとに、地域の「絆」を大きく広げ、「お客様第一の姿勢」を通じて、地域に確固たる存在感をゆるぎないものにし、地元の資金は地元へ還元するという基本理念を掲げて、多様化するニーズには的確に対応した業務活動に取り組んでまいりました。

その中で、団塊世代の退職金を獲得すべく新商品「退職金専用定期

の発売を始め、ボーナス期の「ふれあい定期」、年金の獲得等の推進を図りましたが、昨年10月より地公体の指定金融機関の交代から公金資金の流出により預金残高は881億18百万円となりました。一方融資面は保証協会の責任共有制度が施行する中で、住宅ローン「楽しいわが家」の推進を始め、他行の肩代わり資金、アパート資金等に取り組みましたが、地公体の短期資金の返済により貸出金残高は397億51百万円となりました。

収益面については、政策金利の引上げに伴う預金利息の増加や改正減価償却制度に対応する中で引続き効率的な資金運用と徹底した経費の削減に努めると共に、厳正なる諸償却と引当金を行い資産内容の充実強化を図った結果、厳しい金融環境下のもと当期純利益を183,217千円計上することができました。そして、自己資本比率は17.29%であり、経営の健全性は高水準で維持することができました。

これも偏に、会員の皆様をはじめ、ご利用頂く地域の多くの皆様方の絶大なるご支援とご協力の賜と、心より厚く感謝申し上げます。

平成20年度の我が国経済情勢は、石油など資源・原材料価格の高騰や米欧のサブプライムローン問題等による国際的な景気減速懸念の中で、地域と共に歩む信用金庫の原点を踏まえて、お互いの「絆」の経営を実践し、最も相談しやすいパートナーとして、コンプライアンスの徹底とおお客様の満足度を追及し強靱な経営基盤の確立に邁進する所存でございますので、今後とも地域の皆様の変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年7月

理事長 赤木洋志